

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年3月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4079700219		
法人名	医療法人 赤池協同医院		
事業所名	グループホーム あおぞら		
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡福智町赤池470番地2号 (電話 0947-28-9280)		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成20年3月19日	評価確定日	平成20年4月2日

## 【情報提供票より】(20年 2月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	10人, 非常勤 8人, 常勤換算 10.5人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>	<u>新築</u> / 改築
建物構造	軽量鉄骨 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (100,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / <u>無</u>	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(2月20日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	10名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	2名	要支援2	1名		
年齢	平均 86.7歳	最低	75歳	最高	100歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医) 赤池協同医院
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町並みが見渡せる小高い丘に建てられたホームは落ち着いた雰囲気、自然と触れ合うことのできる環境にある。母体である医院と医療連携が取れ、利用者の健康管理は行き届いており利用者、家族共に安心して過ごすことができている。その為か利用者の表情等豊かで日常生活を楽しんでいることが窺い知れる。玄関を入ると2ユニットが左右に広がり 広々とした室内はゆったりとしたスペースがあり個々に寛げる工夫がされている。また、天窓があり 自然の採光が取り入れられ明るくその中で利用者職員等がごく普通に日常を送っており 家庭的な雰囲気のあるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>計画書、記録に関しては見直しを行い、長期 短期の期間を具体的に設定している。日々の記録等も徐々に改善されている。研修の機会も増え職員のスキルアップに心がけている。開かれたホームとなるよう近隣住民との挨拶や地域からのボランティアの受け入れや運営推進会議等の活用にて徐々に交流の機会が増えている。安全な生活を送る為に警察や消防署への働きかけも必要と思われるが、これに関しては取り組みが行われていない状況である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価、外部評価の意義等は管理者から職員に説明は行っているが、項目の検討等は管理者が行っており 職員全員が関わって取り組んでいる状況である。ホーム全体で項目を話し合い意義を理解することでより一層のサービスの質の向上に繋がると思われる為、全職員で自己評価の取り組みを希望する。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回定期的に開かれており 地域の代表者・市町村担当課長 家族代表 元市町村担当者の出席があり ホームの状況や活動の報告を行い、出席者から意見、アドバイスをもらいホーム運営や日々の生活の向上に活かし取り組んでいるが、老人会や民生委員の出席が無い状況である。地域の高齢者やその他の関わりを深めることで、ホームの役割や強み等を一層知ってもらえるのではないだろうか。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>管理者や職員は家族が面会に訪れたときは気軽に声をかけ、必ずお茶を出しゆっくり話しかける工夫をしている。意見に対しては、ミーティング時に検討し対応している。外部にも表出できるよう窓口の連絡先を掲示し、契約の際にも説明を行っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内の行事の参加や中学生の体験学習の受け入れ、ボランティアと利用者の交流等徐々に地域との関わりが増え敬老会への参加も実施している。また、ホームの祭りには老人会へ招待状を出す等行事を通して地域と関わっているが、町内会加入はまだ加入しておらず、清掃活動等日常の関わりが希薄である。近隣の住民と触れ合うことで利用者や職員も地域の一員として馴染みの顔になることを希望する。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1.理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりがあつちのままの自分でいられ家庭の温もりを感じとれる場所作りを目指す」といった理念を掲げているが開設当初からのものとなっている。		家庭的な雰囲気を利用者と接するといった理念でホーム全体が暖かいものとなっているが、地域との関わりや、役割等が表記されていない。地域と密着して暮らして行く上での理念をホーム独自に作りあげていくことでより一層地域に溶け込めるのではないだろうか。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員共に朝礼で理念を唱和し、日々の生活で取り組みを行っている。理念はホーム内の玄関や脱衣所等の目に付くところに掲示しており、ホームの姿がわかるようにしている。		
<b>2.地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事やボランティアの受け入れ、中学生の体験学習の場の提供等で地域と関わっているが、町内会には未加入である。今後加入の方向で検討している。		
<b>3.理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価に対し可能な部分から取り組み、今回の評価にも管理者を中心とし取り組みは行っているが、全職員が評価の意義の理解や具体的な取り組みを行う機会が少ない。		おおまかには職員の評価に対する周知はあるが、項目を話し合うことはしていない状況である。ホーム全体の質の向上の為に項目毎に話し合う機会を設け、全員が周知、理解することを希望する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催し、ホームの状況、活動の報告等行っている。それに対し出席者が助言した意見をだし、ホームの運営やサービスの質の向上に取り組んでいる。出席者は市町村担当課長・元市町村担当者・地域住民代表者・家族代表・管理者・職員等から構成されている。		

グループホーム あおぞら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村が主催する事業所のサポーター会議があり、その際に市町村担当者や地域包括支援センターの職員と情報交換を行い、介護保険制度の動向や必要な情報を収集している。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	玄関にパンフレットを置き必要な人にはいつでも説明できるよう準備している。内部研修も開いており、職員も周知している。		
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には家族に必ず声をかけ、本人の状況を報告している。1ヶ月に1回金銭の確認書と一緒に個別に便りを添え状態等をわかりやすく報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には職員は必ず声をかけ、意見や要望を聴き取る姿勢を基本にしている。また、運営推進会議においても意見を聴き取り、反映させている。公的な窓口等があることは契約時に説明している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人間での職員の異動は行っておらず、退職者も少ない。離職等で引継を行う場合は、期間に余裕を持ち研修も必ず受けられるようにしている。		

グループホーム あおぞら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>法人単位で採用しているが、特に条件等は設けていない。採用後全体研修を行い、職員の適性を見極め配属している。ホームで働く職員の特技を活かし趣味活動に取り入れている。また、休暇等取りやすいよう管理者が配慮している。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>日常の業務の中で管理者が職員に随時説明を行い、職員も人権尊重の理解をしている。外部研修にも参加する機会を作っている。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修に関しては、法人から伝達があり参加している。その後は内部で伝達研修を行っている。職員が必要と思われる研修には参加できるように勤務シフトの調整を行っている。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>サポーター会議にて情報交換を行っているが、管理者のみに留まっている。他事業所に見学に行ったり訪問を受けることはあるが、交流は殆ど無い。</p>		<p>市町村が主催するサポーター会議に管理者と職員が出席することで他の事業所との面識ができ、交流の機会が作れるのではないだろうか。また、他のホームに積極的に見学に行くこともネットワーク作りとなり、職員同士のコミュニケーションが図られ、更なるサービスの質の向上が図られる為、他事業所との交流を希望する。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族が見学した後、本人同行にて再度見学に来られることが多い。現在は空き状況が無い為、体験利用は困難であるが、日帰りの体験利用や見学はいつでも可能としている。本人、家族との面談を重点に置き時間をかけている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者職員が家族のように暮らすことを大切にしている。職員が知らない昔の知恵や畑作り、料理方法等利用者に学ぶことが多い。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人、家族の訴えや意向を聞き取り、本人と確認し合っている。また、毎日の会話の中から意向を把握している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らしするための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人に直接聞き取り、家族には面会時に聞き取っている。それを元にカンファレンスを行い計画を作成しており、主治医には往診時や受診時に聞き取り計画に反映させている。</p>		<p>本人、家族に聞き取り計画を作成しているものの、担当者会議の記録が無い状況である。主治医の意見等も記録されていない。本人、家族の意向を確認する上でも担当者会議を本人、家族を交えて行い記録として残すことを希望する。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回モニタリングを行い、カンファレンスを行っている。本人の現状の変化に合わせているが、目標等が抽象的になっており、内容も変わっていない計画となっている。</p>		<p>利用者の状況に合わせて計画を見直していることは明らかであるが、計画書の目標が抽象的なため具体的に表記することで本人の状態や意向がわかりやすくなると思われる。その為に本人との会話等を記録しそれをカンファレンスに活用しては如何だろうか。</p>

グループホーム あおぞら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状態に合わせ受診の付き添いを行ったり 家族に代わり受診の支援を行っている。また、希望があれば家族の宿泊等受け入れている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医との関係を継続できるよう支援している。本人、家族の希望があればホームの協力医への変更もある。本人のかかりつけ医への受診、協力医の往診体制も整っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に同意書を交わし、説明を行っている。重度化した場合は家族と話し合い、状態やホームの体制を考慮した上で協力医やホームで看取る方針である。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者が落ち着いて暮らせるよう言葉かけ等配慮している。写真や個人名の掲示に関しては、本人、家族より同意書を交わしている。個人記録等は夜間は鍵の掛かる書庫に保管しているが、昼間は事務所に置いている。		個人記録は昼間事務所に置いてあり 利用者名の入ったメモ等も目に付きやすい状況である。事務所は誰でも出入りできる場所である為、個別ファイルにカバーを掛け目に付かない工夫をし、メモ等は目に付かない場所に移すことで、個人情報の保護に役立つと思われる。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの1日の過ごし方の流れはあるが、本人の状態や希望にて1日を過ごしている。音楽を楽しんだり、趣味を楽しむ等其々が自分のペースで楽しんでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の栄養士がバランスを考えていて、味付けや盛り付けを利用者と職員が行い、配膳等は利用者の能力に応じ行っている。食事中は利用者同士、職員と和やかに会話を楽しんだり、食事を楽しんでいる。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2ユニットが隔日で入浴日を設けているが、本人の希望でどちらでも入浴でき、時間帯の設定は無く、入浴を楽しめるように支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の特技や能力に応じ役割がある。畑での作業や洗濯物たたみ、壁面を飾る絵画等の作品作り等個々の力を引き出し、楽しめるよう職員が寄り添い支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や能力に応じ散歩、買い物等毎日ではないが出かけられるように支援している。ホームが坂の上にある為、車での移動が多いが、本人の状態によりホーム周辺を散歩する等個別対応している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠はすることなく、職員が見守り利用者の安全に気を配っている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう動きかけている	年に2回の避難訓練を予定しているが、現在は1回実施している。避難場所の確認や連絡網等を作成し、避難訓練時に活用している。夜間想定訓練の実施や地域の住民、消防署との連携はまだ図られていない。		法人の協力を得て避難訓練を実施し、避難場所や連絡網等確認しているが、夜間想定訓練の実施や地域の消防団等との連携を図ることで、利用者の安全、家族の安心が得られる。早い段階で災害に対する備えを充実することを希望する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が栄養バランスを考慮した献立を立てている。利用者の状態の変化によって摂取量等の記録を行っている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると整理整頓された空間が広がり、リビング等は季節を感じさせる飾り付けがありホームの温もりを感じることができる。利用者の状態や天候によっては居室の臭いを感じたり、台所を片付ける音、ドアの開け閉めの音等が耳に残ることがある。		広々とした空間には、ゆっくり寛げるスペースがあり、天窓からの暖かな日差しが心地よく感じられる。その居心地のよさを継続する為に、居室の換気や消臭剤利用等での臭いに対する工夫とホーム内の音に関する配慮を希望する。
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個々の居室には、馴染みのものや、使い慣れた筆筒、椅子等が持ち込まれ其々の暮らしが継続されている。		